

令和4年度 学校評価における 重点目標

①【学習】

すべての教育活動をとおして「できないことができるようになる」ためのチャレンジを支援し、達成感を味わわせることで自己肯定感・自尊感情を育てる取組を充実させる。

②【コミュニケーション力・挨拶】

授業中での言語活動の充実を図り、実生活の中でよりよい人間関係を育むためのコミュニケーション能力を高める。コミュニケーションの基本である挨拶を、誰にでも自分から進んでできる児童を増やす。

③【学力】

国語科を通して自分の思いや考えを伝え合う力の育成を目指し研修を重ねる。児童が主体的に取り組める授業実践をすすめるとともに、学ぶ意欲や習慣を身に付けた児童の育成を図る。

④【健康・体力向上】

体づくり運動や体幹を鍛える運動を積極的に取り入れるとともに、規則正しい生活習慣の重要性を家庭に啓蒙し、体力向上を図る。

⑤【環境・安心安全】

清掃活動に重点をおくとともに、教職員による安全点検を徹底し、清潔で安心安全な環境整備に取り組む。保護者、地域や関係機関と連携し、安全教育の取組をすすめる。

⑥【連携】

学校運営協議会の適切な運用を図るとともに、HP や Twitter、学校・学級だより、懇談会等をとおして、積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。

令和4年度 学校評価(中間評価)

(重点課題項目番号)「1」	[2]具体的達成目標と評価指標	[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析			
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	中間評価		児童生徒アンケート	保護者アンケート		
		評価日	1月13日	実施日	7月・12月	実施日	12月
		公表日	1月13日	公表日	1月13日	公表日	1月13日
	公表方法 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他 	評価日 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他 	実施日 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他 	実施日 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他 			
①	○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全教職員で共通理解を図る。(児童理解全体会議:年2回、生指部会:月1回) ○主体的な学びのある授業、「できない」を「できた」にする授業の工夫に取り組む。(めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定・ICTの活用)	B	○個々の児童について共通理解を図るため、児童理解の会議を7月に実施。 ○7月・11月に授業観察の機会をもち、児童の様子や学級の状況、授業の工夫や課題について授業者と面談し共有した。	「学校へ行くことが楽しみ」+79.5 「授業が分かりやすい」+93.1 「できるようになろうとチャレンジをたくさんしている」+83.6 「困ったことや悩んだことを先生に相談している」+60.9 「タブレット端末を使うことは勉強の役に立つ」+93.9	「学校へ行くのを楽しみにしている」+85.4 「授業が分かりやすいと言っている」+76.6 「学校は相談に適切に応じている」+83.6 「学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる」+74.6 「学校はタブレット端末などICTを活用した教育を進めている」+82.6		
②	○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。(挨拶) ○各教科での言語活動の充実、学級活動等での話合いの充実を図る。	B	○生徒指導部が掲げる生活目標に沿って、委員会活動とも連携して、児童の主体的な取り組みをすすめている。 ※生活目標 6・7月 9・10月 11・12月 1・2月	「自分からすすんで挨拶をしている」+82.0 「話したり話し合ったりすることが好き」+73.6 ※アンケート欄の+の後の数字は、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数	「子どもは地域(校区)の知っている人に会ったらいつも挨拶をしている」+66.7 「家庭で子どもと話す時間をできるだけもっている」+90.9		
③	○校内研究教科を国語科とし、研修を深める。(自分の思いや考えを伝え合う力の育成) ○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、授業力向上を図る。 ○家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。	B	○1・2・3・4・5年で国語科の授業研究を行った。学年で協働して教材研究を行い、授業を公開したのち研究協議を通して研修を深めた。	「国語の授業が楽しい」+80.1 「家での学習の時間を決めて、毎日取り組んでいる」+75.4 ※今年度は校内研究教科を国語科とした1年目	「子どもには家庭学習の習慣が身につけている」+73.4		
④	○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。 ○体幹を鍛えるトレーニングの取組を引き続き実施し、定着させる。 ○規則正しい生活習慣の確立について、家庭と連携して進める。	B	○毎朝の体づくり体操を継続して行っている。1年間を前後半に分けてVer1と昨年度制作したVer2とをそれぞれ実施。 ○体幹を鍛えるKOPA式トレーニングを全学年と特別支援学級の自立活動で実施。	「早寝早起き朝ごはん・しっかり運動・好き嫌いなしができています」+78.7 「体育や休み時間には、しっかり体を動かして運動している」+87.2	「好き嫌いのない食事・早寝早起き朝ごはん・外遊びをしている」+78.3		
⑤	○清掃活動の充実、教職員による安全点検(月1回)、見回り等を通じて、安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 ○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。	B	○教職員による校内安全点検と校区内パトロールを毎月行い、危険箇所や修繕箇所の早期対応に努めている。 ○避難訓練を実施。	「校内がきれいになるようにしている」+93.0	「学校は子どもとともに清潔な環境美化に努めている」+82.8		
⑥	○年間を通じて外部団体や学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いのなかで体験的な活動の充実を図る。 ○ICTの活用により、外部とつながる体験的な学びの充実を図る ○HPやTwitter、学校・学級だより等、積極的な情報発信に努める。そのための校内体制の整備を進める。	B	○外部団体や地域の方を招いての出前授業は、感染症対策を講じながら、複数講演やリモート講演など工夫しながらできるだけ実施している ○Twitterを活用しての情報発信を積極的に行った。	「HPやtwitter、台小だよりを通じて、教育方針や教育活動を分かりやすく伝えている」+77.6			

令和4年度 学校評価(総括) ※学校関係者含む

重点 評価 項目 番号 「1」	[2]具体的達成目標と評価指標	[5]自己評価		[6]学校関係者評価
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準 まで、数値化	最終評価(成果と課題)	課題の改善策等	評価者、 8人
		評価日	3月1日	評価日 3月3日
		公表日 7月1日	公表日 3月17日	公表日 3月17日
評価 方法	公表 方法	公表 方法	公表 方法	
①	<p>○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全教職員で共通理解を図る。(児童理解全体会議:年2回、生指部会:月1回)</p> <p>○主体的な学びのある授業、「できない」を「できた」にする授業の工夫に取り組む。(めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定・ICTの活用)</p>	<p>○1学期(5月)実施の児童理解の内容を踏まえ、2月には、その後の成長・変容と次年度に向けての課題を確認する会議を行った。新学年に向けて、職員間での共通理解を図る。</p> <p>○教職員の学級づくりについての自己評価は昨年度に引き続きポイントが高く、一人一人を大切にしながら、児童のできるようになるという頑張りをしっかり支える学級経営に取り組んできたことがわかる。「学校へ行くことが楽しみ」の項目については、昨年度に引き続き一定の評価をいただいたと考えている。</p> <p>○ICT活用の充実に向けて、生駒市ICT支援員の協力を得て、エバンジェリストが中心となりミニ研修を企画し、職員のスキルアップを図ることができた。</p> <p>「一人一人の良さを認め、なかまづくりを重視した学級づくりができた」+91.2 「どの子もよく考え理解できる分かりやすい授業の工夫を図ることができた」+88.2 「できないことができるようになるようにチャレンジすることの大切さを意識して取り組ませた」+94.1 「課題や問題があったとき、学年や各部と連携し、組織的に対応することができた」+97.1</p>	<p>○生活面、健康面、アレルギー対応等、個々の児童の課題は様々で、その配慮や支援については保護者との連携が不可欠である。保護者と信頼関係を結びながら、協力体制を一層強めていく必要がある。今後も、一人一人を大切に学級経営やわかる授業づくりの取組に努め、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○「分かる」「できる」授業実践については、研修の充実を図りながら、教員同士で学び合う機会を大事にしていきたい。</p> <p>○課題に対する対応については、学校全体で連携しながら進めてきた。今後も組織的な取組を推進できるよう、職員の意識と組織力を高めていきたい。</p> <p>○ICT活用をさらに充実させるために、今後も職員研修を重ねて取り組み、学校全体として有効な活用についてすすめていく。</p> <p>○今年度は、校務分掌の研修部に「情報教育担当」を設け、情報活用能力や情報モラルについての年間計画の作成を行ったが、今後は計画に従った取組の充実を図る。</p>	<p>○個々に課題をもつ児童に対して、個に応じた対応を求められる教職員の負担は大きい。教職員増員等の必要性を感じる。</p> <p>○タブレット端末の活用等ICTを活かした教育活動が進められていることは評価できる。児童の情報モラルの向上や正しい使い方についても家庭との連携の中で進めていく必要がある。</p> <p>○日々の授業準備、児童や保護者対応に加えて感染症対応と、多忙な状況であったことをねぎらいたい。引き続き学校として組織的な対応に努めることで、教職員の働き方改革の推進をお願いしたい。</p>
②	<p>○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。(挨拶)</p> <p>○各教科での言語活動の充実、学級活動等での話合いの充実を図る。</p>	<p>○挨拶については、児童アンケートにおいて、昨年度に引き続き肯定的な回答が8割を超えている。教職員の積極的な取組があったことも結果につながっていると評価している。</p> <p>○今後も取組を推進しながら「いつでも」「誰にでも」「自分から」元気な挨拶ができる児童を育てたい。地域の中での子どもと大人はもちろん、大人と大人の挨拶も活発になれればと考えている。</p> <p>○今年度は感染症対策をしながら、対話的な学びの場の設定に工夫を凝らして取り組むことができた。</p> <p>「挨拶の習慣化に向けて積極的に取り組んだ」+79.4 「話合い活動を授業に取り入れ、コミュニケーション能力を高めることができた」+82.4</p>	<p>○コミュニケーションの基盤となる挨拶の指導は、全教職員で継続していく。</p> <p>○引き続き、生徒指導部の情報交換を定期的に行い、本校の生徒指導上の課題を、学校全体で共有しながら、共通理解の上で統一感のある指導を進める。</p> <p>○タブレットも活用しながら、感染症拡大下での対話的な学びのあり方を研修・工夫していく。</p>	<p>○児童アンケートの結果が昨年度以降安定していることから、挨拶の取組は、効果的に進められているといえる。挨拶は地域においても大事なコミュニケーションであり、学校・家庭・地域がともに取り組んでいく必要がある。</p> <p>○地域の見守り活動の際の児童との挨拶やコミュニケーションは、見守りボランティアにとってもやりがいにつながっている。「社会を明るくする運動」作文コンテスト特別賞の本校自動作品から、挨拶についての児童の思いが伝わった。</p>
③	<p>○校内研究教科を国語科とし、研修を深める。(自分の思いや考えを伝え合う力の育成)</p> <p>○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、授業力向上を図る。</p> <p>○家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。</p>	<p>○「国語の授業が楽しい」とアンケートで回答した児童が80.1%</p> <p>○1・2・3・4・5年で国語科、6年で生駒市教育振興会(特別活動部会)の授業公開を行った。授業公開に向けて各学年で協働して授業案が練り上げられ、特に若手教員にとっては貴重な学びの場になっていた。授業後の研究協議は、低・中・高学年で行い、違う学年の視点から意見が述べられ研修が深まった。</p> <p>○研修として、話すこと・聞くこと的能力分析表の検討や全国学力調査の分析・共有を行った。</p> <p>○伝え合い活動の活性化を図るため、すべての教室にホワイトボードの準備を整えた。</p> <p>○1学期の懇談時に「家庭学習の手引き」(県教育委員会)を用いて家庭への啓発・連携を図った。</p> <p>「特に国語科では、伝え合いを意識した授業の工夫をすることができた」+94.1 「学年×10分間をめやすに、家庭学習の習慣づくりを図ることができた」+76.5</p>	<p>○今年度は、研究主題を「生きる力にあふれる児童の育成を目指して～自分の思いや考えを伝え合う力を育む～国語科を通して」とした1年目で、今年度の成果と課題を明らかにしながら、さらに取組をすすめる。</p> <p>○「家庭学習の手引き」(県教育委員会)を活用し、家庭学習の習慣づくりを積極的にすすめる。</p> <p>○タブレット端末も活用しながら、主体的に学べる多様な家庭学習の工夫を図る</p>	<p>○今年度の新たな研修主題に沿った授業研修の成果を土台に、更なる取組の深化に期待する。</p> <p>○「伝え合いを意識した授業の工夫」等、教職員アンケートの肯定的回答の項目が、昨年度に比べて大変多くなっている。感染症対策を講じながらも教育活動が活発に行われてきた結果と評価できる。</p>

④	<p>○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。</p> <p>○体幹を鍛えるトレーニングの取組を引き続き実施し、定着させる。</p> <p>○規則正しい生活習慣の確立について、家庭と連携して進める。</p>	<p>A</p> <p>○毎朝の体づくり体操は定着している。</p> <p>○体幹を鍛えるKOBA式トレーニングを感染対策を講じながら実施。今後も継続して実施していく。</p> <p>○今年度は、感染症対策を講じながら、「全校ドッチボール大会」(特活部)や「大なわ大会」(体育部)を実施した。学級・学年での外遊びが活発になる姿が見られた。</p> <p>「児童の体力を高めるよう指導の工夫をして取り組んだ」+94.1</p>	<p>○毎日の体づくり運動は、短時間ではあるが有効な取組として今後も継続していきたい。</p> <p>○体力向上の取組は、今後も年間を通じて、計画的に進めていく必要がある。各学級では、「みんな遊び」も活発に行われているが、今後はさらに、体育部や委員会活動とも連携し、児童が進んで運動に取り組めるような企画を工夫し実践していきたい。</p>	<p>○感染症の状況が続いた中、児童の生活習慣や体力向上については心配があった。学校での様々な取組の工夫や実践があることで、児童の体力向上が図られていることがアンケート結果からも分かる。</p> <p>○放課後や休日に安心して外遊びができる時間・場所がたいへん少なくなってきたので、様々な工夫しながらの学校での取組を今後も継続してもらいたい。</p>
⑤	<p>○清掃活動の充実、教職員による安全点検(月1回)、見回り等を通じて、安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。</p> <p>○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。</p>	<p>B</p> <p>○教職員による校内安全点検・校区パトロールは、危険個所の早期発見・迅速対応につながり、事故の未然防止につながっている。</p> <p>○毎日の清掃時間は、児童・教職員がともに環境美化に取り組んでいる。</p> <p>○避難訓練(地震・火事・不審者)、薬物乱用防止教室(6年)を実施。地域の安心安全につながる取組として認知症サポーター養成講座(6年)を実施する。</p> <p>「清掃活動を重視し、環境について考えさせることができた」+82.4</p>	<p>○安心安全な学校生活のための環境整備は、教育活動の基盤であることを再確認し、今後も全教職員で丁寧に取り組んでいく。</p> <p>○命を守る行動を身に付ける取組は、継続して取り組む必要がある。児童の発達段階に応じて計画的に進めたい。感染症予防の日常活動も引き続き徹底していく。</p>	<p>○校内の美化はもちろん、学級教室の環境整備についても丁寧に進められている。</p> <p>○防犯対策の強化を図る必要がある。不審者対応の避難訓練など校内での対策は行われているが、正門のオートロック化などハード面での強化について行政にも働きかけながら進める必要がある。</p>
⑥	<p>○年間を通じて外部団体や学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いのなかで体験的な活動の充実を図る。</p> <p>○ICTの活用により、外部とつながる体験的な学びの充実を図る</p> <p>○HPやTwitter、学校・学級だより等、積極的な情報発信に努める。そのための校内体制の整備を進める。</p>	<p>A</p> <p>○各学年で出前授業の活用を積極的に進めた。クラスごとに何度もお話いただいたり、多目的室から各教室にオンラインによる授業をしていただいたり、各実施団体の方には多大なご協力をいただいた。どの授業でも、熱心に取り組む、生き生きと活動する児童の姿があった。</p> <p>○生駒市キャリア教育プランナーとの連携を図り、ICTを活用したオンライン授業を積極的に行った。</p> <p>○コミュニティースクールとして、地域学校協働本部の取組として、サマースクール・ウィンタースクールの実施や、学習支援(特別支援・自立活動)など取組の幅が広がった。</p> <p>○「台小だより」は、家庭と学校をつなぐ情報発信ツールとして、必要に応じて発行した。今年度はTwitterの積極的活用をすすめ、できるだけタイムリーに情報発信するよう努めた。</p> <p>「HPやtwitter、学校・学年(学級)だより等を通じて、学校の様子を積極的に発信することができた」+70.6</p> <p>「授業参観・懇談会や学校行事などを通じて保護者や地域との連携を深めることができた」+94.1</p>	<p>○体験を通して学ぶことの教育的効果は大きいと考えている。今後も、外部団体や地域の方々の協力を得ながらすすめていきたい。</p> <p>○地域学校協働本部の充実を図り、さらに具体的な活動をすすめていきたい。</p> <p>○HPやTwitterを活用した情報発信を充実させていきたい。校内組織体制、人的体制等整える必要がある。</p>	<p>○出前授業での体験学習の充実が図られていることは意義深い。プール学習や音楽学習発表会、芸術鑑賞会など、コロナ禍で3年ぶりに取組が進められたことは評価。様々な工夫や苦労があったことと推察する。</p> <p>○地域学校協働活動について</p> <p>○新鮮な情報発信は重要。HPやtwitterを活用した情報発信の充実を期待する。</p>